

# 恵みと真理のニュース



2018年6月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎ 82-31-443-3731 / [www.gntc.net](http://www.gntc.net)

## [証]



**神様は重い病気を治療してください、常に感謝し熱心に教会で礼拝し奉仕生活をするようにしてくださいました**

わたしは中学生の頃、友達について教会に通い始めました。しかし、教会に行って友達と共に時間を過ごすのが良くて代わりに説教を聴いたり、聖書の勉強をすることに関心がなかったです。伝道士が担任する小さい教会で学生の数が少なくて高校生時にはしばらく学生会長も任されました。御言葉に関心を持たなくて信仰も成長しなかったです。そうするうちに教会が廃教され他の教会が建てられてわたしの心に大きい傷を受けて教会に行かなくなりました。大人になっても信仰生活をしなかったです。田舎にいる母は熱心に神様を仕える生活をしながらわたしに教会に通ういなさいと強く勧めましたが、高校の時のその記憶のことできました。

わたしの歳32歳になった時、母の紹介で母が通う教会の姉妹を紹介してもらって付き合って結婚をしました。私達が結婚した後、妻も教会に行かなくなりました。勤務していた会社の経営難で苦しんでわたしは地方にある会社で離職しました。そこで、昼夜の交代勤務をしながら誰よりも熱心に仕事をしました。経済的な苦しみの中で夢を持つ出来ませんでした。そうするうちに妻が腰が痛くてよく歩けなくなりました。妻は病院に通ったり漢方病院で針を打っても効果がなかったです。

ある日から漢方病院から帰って来た妻がわたしに教会に行くことになったと話しました。病院で針の治療を受けている時、聞こえて来た福音の賛美歌詞が妻の心に入りて感動を受けたそうです。妻が痛くて家の事情がよくない状況なのであえて反対しませんでした。妻

は子供達をつれてソサン聖殿に行き始めました。妻は今まで神様の懐を離れて生きて来たことを悔い改めて熱心に教会に通いながら健康を回復してわたしを伝道しました。

2009年度にアンサン市に引越しました。妻と子供達はアンサン聖殿で相変わらず熱心に信仰生活をしました。わたしは主日ごとに妻と子供達を教会に送った後、車の中で礼拝が終わるのを待って再び家にまで車に乗せて連れ帰って来たりしました。教会の前まで行っても礼拝堂は入らなかったです。子供と妻は私に車の中で寝なくて礼拝に参席して牧師の説教も聴くのを願いました。愛する子供達と妻の頼みなので仕方なく礼拝堂に入りて礼拝に参席しました。2010年4月イースターの日でした。その日、御言葉に大きい恵みを受けて帰って来た放蕩息子の心になって悔い改める祈りをしてイエス様を受け入れました。

その年12月でした。私が急に咳をして寝れなかったです。最初は単純に風邪だと思ってしばらく薬だけ飲んで過ごして、咳と痛みが酷くなり、病院に行ってX-ray撮影検査を受けました。心臓に水が入っていると言われました。応急で大学病院に行って再検査を受けて入院しました。妻の連絡を受けた教会で伝道士と牧師が見舞いに来てくださいって神様の御言葉で慰めと励まして祈ってくださいました。教会の伝道部でも多くの方が来られ礼拝をして祈ってくださいました。

耐え忍ぶ事ができました。妻は幼い子供を家に置いて私を介護しながら大変な姿を見せなかつたです。妻はわたしの隣でひまな時、神様に祈りました。そうしながら、私にも神様の仰ぎ熱心に祈りなさいとしました。

“神様は私と共におられる、助けてください。”と話しながら、わたしの信仰にも励ましてくれて病気が治ると希望を抱いてくれました。

原因を知らない心臓病によって2年間の入院と退院を振り替えして医療診療や珍しい病気で考えるごろ、のどの辺にポリープのようなものが出来て組織検査を受けた結果、リンパ腺癌の診断を受けました。それももうのどの周りとおなかまで転移され4期から5期になつたとしました。しかし、感謝することは最近、治療の

薬が開発され治療を受けると完治可能だと言われました。

その後、私は6回抗がん治療を受けて5回以上の放射線の治療を受けました。治療を受ける過程で私は神様と共におられて癒してくださいとのを感じました。驚く事は繰り返して抗がん剤治療を受ける時に髪の毛だけ抜けて他の不作用がなかったです。胸がむかむかする事もなく食べ物も食べることも問題なかったです。治療を受けた後、次の日には会社で仕事をする事も出来ました。わたしの中に神様がおられてわたしのため祈ってください、牧師と教会があることに力強かったです。多くの方が祈ってください、神様が助けてくださいって私は抗がん剤治療を受ける事が出来ました。

神様の恵みの中で治療を終えて6ヶ月ごとに定期検査を受けました。そして、5年になり最後の検査を控えています。この最後の検査で最終の完治判定を受けるように神様に祈ります。“しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちにはノミの太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように躍り出て飛び回る。(マラキ書 3:20)”という御言葉を握んで祈ります。

まだ、わたしの心臓は弱くて経済的な苦難もあります。しかし、この程度まで健康を回復して今日も病弱な方々のため奉仕するようになつたことに感謝して限りなく喜んで、癒しの恵みを与えてくださった神様に限りなく感謝します。また、子供達を今までイエス様をよく信じて教会学校、中等部の聖歌隊で神様に賛美を捧げるようにしてくださった神様の恵みに感謝します。また、私と子供達のため献身しながら教会でも女子奉仕連合会で熱心に主と聖徒達を仕え奉仕する生活をするように妻を愛してくださった神様感謝します。

病気を通してわたしの弱さを深く悟るようになり、もうこれからはいつどこでも神様だけ委ねて神様の導きに従順視ながら生きていきます。神様が与えてくださった健康をよく管理し常に神様に感謝しながら主の事に力を尽くして生きます。ハalleluya!



## [信仰コラム]

### 返せない借りと励んで返すべきの借り

の要件が整えられたことが罪の許しに至らせる悔い改めです。

救いの恵みに関連して私達が警戒すべきことがあります。イエスキリストによる救いの恵みを借りに扱うのを警戒すべきです。神様が与えてくださるこの救いの恵みは借りではなくプレゼントです。神様の前の人の間の罪を借りという概念で説明するとこのような借りは人の行為では返す道が全くない借りです。イエスキリストの贖いの恵みだけで棒引きになって清算されます。

第二は、励んで返すべきの借りについて調べてみます。キリスト人は別段の借りの意識を持ちます。それは愛の借りです。私達がイエスキリストを信じるようになったのは先に神様の選びを被った故であるが、一方では数多くの人々の苦労があってできたのです。今私達が信仰生活を良くできることも多くの教役者と聖徒達の助けがあるからです。教会は多くの聖徒の献身でできたのです。礼拝のために様々な分野で奉仕する方がいます。キリスト人ではないとしても礼拝を捧げるに助けになる方々が数多くいます。電気、水道、通信、運送に關係された人々、国家安保と治安のために苦労する方々がいます。その借りを返す方法は多くあるが、その中でキリスト人がすることができ、すべきことがあります。福音を知らない人、信じない人に福音を述べ伝えることであり、他の聖徒達が信仰生活を良くするように手伝うことです。

使徒パウロは福音を伝えるべきだという使命と責任意識をまるで借りを返さなければならない債務者のように認識しました。パウロが話している借りは特異な性

格を持っています。一、この借りは返すべき対象が自分に福音を伝えてくれた人ではなく、神様の恵みを知らない、信じない人々です。二、この借りはお金で計算できる借りではありません。三、この借りは負担の借りではなく使命感に燃えるようにすることです。四、この借りを返すことには神靈な喜びが従います。五、この借りを返すことには主の称賛と賞が約束されています。

続いて使徒パウロは“そこで、わたしとしての切なる願いは、ローマにいるあなたがたにも、福音を宣べ傳えることなのである。”としました。ローマ教会の信者達は福音は聞いたが、未だに使徒達を通じて直接的な教えを受けられなくて教会に様々な問題を抱いていたからです。教会は誘惑と艱難、逼迫を十分に耐えて、勝つことができるよう互いに激励して教え、支えてくれる所です。従って、教会で職分を受けてその任務を遂行することは借りを返すことによく積極的に参加するのです。

私達はイエスキリストを信じることで返せない相当な借りを棒引きされただけではなく天使が慕う身分と地位、業まで得ました。このような恵みを受けた人が表わすべき態度は楽しんで、感謝しながら生きるのであります。そして福音を聞くことができなくて、信じない人々とそして、全ての信じる者達に借りを負った者という認識を持ちながら生きなければなりません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」



恵みと真理教会 チヨヨンモク 牧師

これまで三週間にわたって この世を責める聖靈様、イエス・キリストを信じる者を新しく生まれる聖靈様。教えて悟る聖靈について調べてみました。今日は、福音を宣べ伝えようになさる聖靈様について見てみましょう。

### 第一に、聖靈は福音が全世界の万民に伝播されるようになさいます。

イエス・キリストの死と復活は、罪人の罪を贖いしてくださるためのことです。これらの贖いの恵みは、悔い改めて、イエス・キリストを信じるすべての者のためのことです。誰でもイエス・キリストを信じて受け入れれば罪を赦して、永遠の命を得て、神の子どもになって天国に行くようになります。世の人々が聞くことができるニュースの中、これ以上の嬉しいニュース、良い幸いな知らせはありません。

ローマ人への手紙 10章に記録されるのを「すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである」(ローマ人への手紙 10:9,10)しました。そして続いて言うことを「しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか。「ああ、麗しいかな、良きおとずれを告げる者の足はと書いてあるとおりである」(ローマ人への手紙 10:14,15)しました。福音を聞かなければ信じられないのが明らかの理です。したがって、福音を伝える人の役割が非常に大切です

ところが、福音を伝えることは、聖靈が主導されます。聖靈様は、伝道者に熱心と勇気を下さって力をも下さいます。罪人を救うことは、聖三位一体の神がともにおられることです。聖父の神は、イエスを世にお遣わされになり、イエスは万民の罪を代わりに担当して十字架につけられ死なられ、聖靈様はあがない福音が広く伝播するように働きます。神に選ばれた者たちが福音を聞いて信じ、救いを得るよう福音が全世界の万民に伝播する必要があります。このため、聖靈様の主導の下に教会が設立され、活発に福音を宣べ伝えています

この世界が熱烈に燃える火に溶けて、神の国が到来することになるのは、イエスの再臨で実現されます。イエス・キリストの昇天と再臨の間は、神の国が臨む前の過渡的な期間です。神の国は神に選ばれて救いを得た者が生きるようになるところです。救いを得るために、福音を聞いて信じなければなりません。そのためには福音が広く伝播しなければなりません。したがつて、イエスの昇天と再臨の間の過渡期間は、福音が広く伝播するミッションの期間です

### 福音を宣べ伝えようになさる聖靈様

新約聖書の使徒行伝に聖靈降臨で教会が誕生して、福音が広く伝播される過程が記録されています。聖靈降臨で教会を誕生させました。イエス・キリストを信じて新しく生まれた人々の集まりが生じるようになりました。聖靈を受けた聖徒たちは、福音を伝えることが人生の最も重要な目標になりました。使徒たちだけではなく、すべての聖徒が積極的に活発に福音を伝えました。使徒行伝の最後の章の最後の二つの節では、このように記録されています。「パウロは、自分の借りた家に満二年のあいだ住んで、たずねて来る人々をみな迎え入れ、はばからず、また妨げられることもなく、神の國を宣べ傳え、主イエス・キリストのことを教えづけた」(使徒行伝 28:30,31)使徒の行跡の記録は、このように結んでいますが、福音伝播は終わっていない。今も続いています。使徒たちは、自分の使命を果たしこの世を去ったが、聖靈はまだ神の選ばれた民を救うために働いておられます。そして今も、福音は全世界の万民に伝播されています

### 第二に、聖靈は聖徒たちに力を下さって、福音を宣べ伝えるためにします。

「ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの證人となるであろう」(使徒行伝 1:8)しました。キリストの証人としての任務を遂行するには、聖靈がくださる力がなければなりません。その理由は、人々が福音を理解し、受け入れているのは、容易なことではありません。人間の力では可能なことではありません 未信者に福音を次のように簡潔に言ってみましょう「人間は誰でも、神の前で罪人であり、人間は自らのいかなる努力しても罪を脱いでしまうことがありません。罪人は必ず神の裁きを受けて滅亡することになります、その滅亡とは存在の消滅ではなく、地獄で永遠に苦しみを受けることです。これら的人生を神が哀れんで救うと定めました」「神は人間の罪を担当して代わりに裁き者を遣わしましたが、これが神の独り子です。罪が全くない人だけが、他の人の罪をあがなうことができるからです。神のひとり子が処女の体に聖靈によって人の体でこの世に来られたので、彼がイエス・キリストです

イエスは、人間の罪を担当して十字架につけられ死なれました。」「あがないの成功するかどうかは、イエスが死の力に勝って再び生きるかなかいかにかかっています。死亡は罪によって來たので、イエスが墓に葬られたことで終わってしまったら、あがないの働きが失敗に終わってしまいます。しかし、イエスは復活しました。イエスが予告したとおり葬られてから三日目に死からよみがえられました。そして今は、誰でもイエス・キリストを信じて受け入れさえすれば罪の赦しを受けて救われます」聞くには難しい話ではありません。しかし、信仰が生じなければ、まったく理解されていないお話です。福音を聞いて信じているのは、聖靈の力によったのみ可能です。したがって、伝道者は、聖靈の力を受けて福音を伝えてくださいそして、福音を伝播するとき、聖靈の力によって奇跡が表わされたら頑固な人や敵意を持った人々の心が容易に開かれるようになります。使徒行伝は、使徒や福音を伝える聖徒たちを通して奇跡と奇事がたくさん現れたことが記録されています。これによって、爆発的な復興が起こりました。

ピリポは、ユダヤ人とはすぐ仲が良くないサマリアに行って福音を伝えたところ、悪霊が追い出されて病人がたくさん癒される奇跡が続きました。人々がピリポの話を聞いて行う奇跡も見て一心で彼の言ふことを従ったと聖書に記録されました

ユダヤ人とお互い交際するには消極的で、心を閉じているサマリア人がピリポが行う奇跡を見て心を開いて福音を聞いたことです。これらの力は、ピリポ自分から出てきたのではなく、聖靈が与えられたのです「ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの證人となるであろう」(使徒行伝 1:8)この言葉通り福音を伝える者は、御靈の力を求めて頼る必要があります

### 第三に、聖靈はイエスの言葉とイエスが成し遂げられたことを人々に知らせ、イエスの栄光を現されます。

イエス聖靈に対して言うのを「御靈はわたしに榮光を得させるであろう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。父がお持ちになっているものはみな、わたしのものである。御靈はわたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるのだと、わたしが言ったのは、そのためである」(ヨハネによる福音書 16:14,15)しました

聖靈はイエス様のものだけで言われます。そして、イエスのものは父にいるのです。福音を伝えるという者が、イエスが語られた言葉とは異なり、すなわち、彼は、聖靈のなさることとは関係のない仕事をするのです。「イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネによる福音書 14:6)と、イエスが自ら言われました。ところで、誰が、イエス様が語られた言葉とは異なり、言うならば、彼は聖靈様とは全く無関係だということを自ら露出するのです。聖靈はイエスの誕生と生涯と死と復活を通して成し遂げられたあがないの恵みを知らせることをなさいます

ですから、イエス・キリストが成し遂げられたことに加えて、人間の思想と哲学宗教を加えさせて伝える者は自から自分が聖靈様とは無関係であることを示すものです。聖靈は福音伝波を介して、イエスの栄光を現われます。したがって、伝道者が自分を誇示して、自分の栄光を示そうとするなら、彼は聖靈様を本当に逆らって行なっているのです

聖徒の皆さんには聖靈が与えられる力を頼って福音を宣べ伝えてください。福音を伝えるために集まって祈り、奉仕するところに聖靈が臨み、力を注いでください。福音を伝えるために奉仕するすべての者を、神が喜ばれます。福音を伝えるためにささげる役に立つことは聖徒たちができることであり、聖徒たちに与えられた栄光の特権です。福音を伝えるには、聖靈が主導することです。したがって、福音を伝える者には聖靈様が一緒におられます。聖靈は、私たちに力を下さる、福音をよく伝えることができるようしていただきます。あなたは一生を聖靈に満たさるうちに福音伝播のために用いられる働きになるよう願いします。